

8890

第四卷

保存期限	決裁指定	決行指定	閱
------	------	------	---

大臣 西		件名 工兵第十六隊轉營，件	受領番號 肆第五〇五号
主務局長 	次官 	政務次官 	起元廳課名 軍務局軍事課
主務課長 	高級副官 	參與官 	
主務課員 	主務副官 官房御用掛 	書記官 	決行決裁後 回覽課名 兵務防主建
大正 年 月 日	大正 年 月 日	大正 年 月 日	大正 年 月 日
了結	領受	出提	領受
大正 年 月 日	大正 年 月 日	大正 年 月 日	大正 年 月 日
房官臣大		課局務主	
號番 軍事財第九號		連帶局長	
(裁決)行決		覽回後	
長局		長局	
長課		長課	

政務次官回付
參與官回付
決裁前連帶
後課名
銃器

陸軍省
2.4.20
號
兵務課

軍務局軍事課

12.28
0.3
2.28
0.3

2.19



大臣ヨリ參謀總長へ照會案

工兵第十六大隊ヲ元輜重兵第十七大隊兵
營ニ移轉セシメ度右照會ス

陸軍省 陸普第一四九號 四月十四日

右異存ナキ回答アリタル後

第十師團長へ達案 (經由)

工兵第十六大隊ヲ元輜重兵第十七大隊兵
營ニ移轉スヘシ

細部ニ関シテハ別ニ指示ス

兵器本廠長へ達案

四月十六日

工兵第十大隊ヲ元輜重兵第十七大隊
 兵營ニ移轉セシムルニ就キ之ニ伴ヒ貴廠
 所管ニ屬スル輜重兵營格納諸品ヲ
 工兵第十大隊跡ニ移換セシムヘシ
 細部ニ関シテハ別ニ指示ス

次官ヨリ第十師團參謀長(留字)

兵器本廠長へ通牒

工兵第十大隊轉營等ニ関スル規定
 別紙ノ通定メラレタルニ付依命通牒ス

500

陸軍

二兵第十大隊轉營等ニ関スル規定

一、本規定ハ二兵第十大隊ノ元輪重兵第十

七大隊兵營ニ陣營移轉及元輪重兵第十

七大隊兵營ニ格納シタル兵器廠所管

兵器器具材料ヲ元二兵第十大隊兵營等

ニ移換スル事項ヲ定ムルモノトス

二、二兵第十大隊ノ陣營移轉及之ニ伴フ兵器

廠所管諸品移換ノ實施ハ第十師團長之

ヲ管理ス 之カ為兵器本廠管理兵器

六 移換ニ関シテハ師團長ハ兵器本廠長
ト協議スルモノトス

三 陣營移轉及格納諸品移換ノ實施期日
ハ管理師團長ヨリ豫メ陸軍大臣ニ報告ス
ルモノトス

四 陣營移轉並ニ格納諸品ノ移換ハ主トシテ
兵力ヲ以テ實施施シ已ムヲ得ルモノニ限り
地方輸送機關ヲ用フルコトヲ得

五 兵器廠所管諸品格納ノ爲工兵第十大隊兵
營ノ外元輜重兵第十七大隊厩四棟ヲ使用
スルコトヲ得

六本規定實施ニ要スル經費ハ各相當費目
 ノ支辨トシ令連豫算内ニテ支辨シ難キモノ
 ハ事由ヲ具シ或ルヘク速ヤカニ増額申請
 スルモノトス

八本規定ノ實施完了セハ管理師團長ハ費
 施概況ヲ陸軍大臣ニ報告スルモノトス但シ
 兵器廠^{所管諸品}移轉換後ノ整理狀況ニ関シテハ其ノ
 整理終了後別ニ兵器本廠長ヨリ陸軍大
 臣ニ報告スヘシ

陸軍留參庶第七四號

五〇五

陸軍部 2年 4.8.8

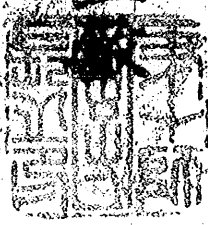
軍事肆第九八號

陸軍部 2年 4.28.8 主計課

工兵第十大隊ヲ元韃重兵第十七大隊
跡ニ轉營ノ件上申

昭和貳年四月六日

陸軍大臣宇垣一成殿 第十師團長長谷川直敬



首題ノ件ニ関シ別紙理由通リ諸種關係上轉營ヲ
必要ト認メラレ候條實施方詮議相成度候也

追テ轉營スルトモ工兵隊保管ノ兵器材料其他物件、
運搬ハ兵力ヲ以テスル事トシ特ニ經費ヲ要セサルモ約ニテ
年ニ亘リ使用セサレ元韃重兵營建物補修ノ爲約
參千圓ヲ要シ候條申添候

0690

五兵衛大隊轉營關理由書

8.
辭留參展第七四
類
別冊

工兵第十大隊ヲ元輜重兵第十七大隊跡ニ
轉營ヲ有利トスル理由

一、現工兵營ノ土地及建物ノ狹隘不足ヲ緩和シ得
ル事

一、敷地ニ就テ

現工兵營敷地ハ老方三千九百二十五坪ニテ建
物大部ハ平家建ナルヲ以テ現在已ニ大隊全員
ノ集合ニ不便ヲ感ニツツアルニテテラ目下不足且
狹隘ナル倉庫其ノ他ノ建造物ヲ新增築スル
場合（轉營不可能トスルハ）之レカ敷地ヲ得ルノ餘地
ナキ状況ナルモ輜重兵營跡ハ敷方九千餘坪
ニテ工兵隊敷地トシテハ優ニ營内ニ露馬場
及作業場ノ類ヲ求メ得ル餘積ヲ有ス

又建造物ニ就テ

倉庫及材料庫 師團司令部所在地外トナリ

先爲戰用被服兵器等ノ貯藏量増加ノ結果

全般ニ亘リ狹隘甚シク現ニ講堂ヲ材料庫ニ使

用ニ戰用兵器ノ一部ハ常用材料庫ニ格納シ被

服倉庫ハ一棟ニテ動員擔任部隊ノ全被服ヲ

貯藏スル餘裕ナク一部ヲ旧第十七師團構以經理

部倉庫ニ格納シアルニ拘テ常用被服ノ一部ヲ

駐滿中隊ノ空兵舎ニ收藏スルノ已ムヲ得ル物况

ニテ又當隊貯藏擔任ニ係ル戰用蹄鉄柱ノ數

醫材料ノ收容スル倉庫ナキヲ以テ元輜重兵

營建造物ニ格納シテ

工兵營中隊兵舎ハ旧第十七大隊ニ於テモ平時定

員ヲ收容スルニモ狹隘ナリ且目下滿洲駐劄ノ爲一
 中隊ヲ欠キアルモ現ニ中隊長室下士居室ノ如別
 室トナシ得サルノ状態ナリ殊ニ管区改正ノ結果
 別表ノ如ク召集兵及一年志願兵等増加ノ爲
 之ヲ收容スルニ多大ノ苦痛ヲ感シツアルノ状況ナリ
 其ノ他器械工場ノ設備ヲ必要トスルモ之ニ充當
 スル建物ナリ又裝蹄場ヲモ有セズ此等ハ轉當ヲ願
 慮シテ工事ノ要求ヲ差控ヘツアルモノナリ
 以上ノ如ク現工兵營ハ敷地及建造物狹隘且不足ニシテ
 教育、内務、衛生及物品搬上甚シク不便不利ヲ
 感シツアルモ之ヲ元輜重兵營ニ移ストキハ別紙配置
 圖ニ記入ノ如ク建物ヲ利用シ得テ此等不便不利
 ヲ免ル事ヲ得

二 一般配置ニ就テ (別紙圖面添付)

一、工兵營ヲ元輜重兵營ニ移シ工兵營ヲ兵器廠地
 域ニ入ルル時ハ兵器廠全体ノ区劃ハ現兵器廠
 固山出張所ノ敷地ト野山砲兵營トヲ合シテ略四角
 形ヲナシ且現出張所ト工兵營トノ中間軍道ヲ廢シ
 西敷地ヲ連續シテ一劃トスヲ得ルヲ以テ兵器廠トシテ
 管理上有利ナリ

二、工兵隊トシテハ現位置ニハ兵營区ノ一隅ニ偏在スル
 重兵營ニ移轉スル時ハ軍用大道路ノ正面ニ位
 置スルトナリ日常ノ交通ニ利便アルニテ且全般
 ヲ見テ兵營配置上外觀整フ事トモナルヘシ北方
 架橋灣習場ヘハ稍遠リナルニ作業場、練兵場
 射撃場等ヘハ距離ニ就テハ兩者大差ナリ

3. 貨物、鉄道輸送比較的頻繁ナル兵器廠カ停
車場ニ連接スル下


三衛戍勤務ヲ軽減シ得ル下

目下兵器廠管理彈藥庫ハ旧兵器所屬ノ
モノヲ利用シタル爲所々ニ散在シ衛戍衛兵ノ
數多キ害アルモ轉管後ハ元兵器部彈藥庫
ト兵器管理彈藥庫トハ單道(轉管上ハ閉鎖
シ得)ヲ境トシ相接觸シタルヲ以テ哨所ノ數
ヲ減シ得衛戍勤務ノ軽減ヲ期シ得ヘシ
以上ノ如ク各種ノ点ヨリ轉管ヲ有利トシ殊ニ土地
建物ニ於テ若シ兵器廠ニシテ現在ノ位トセハ物業
敷地ヲ擴張スルカ或ハ建物ノ大改築ヲ要スル事
トナルヲ以テ此際轉管ヲ必要トス

工兵隊召集下士以下人員表	
年 度	召 集 合 運 人 員
大正十三年度 (工兵第十七大隊)	三三八
大正十五年度 (工兵第十大隊)	五一五
昭和二年度	五二七

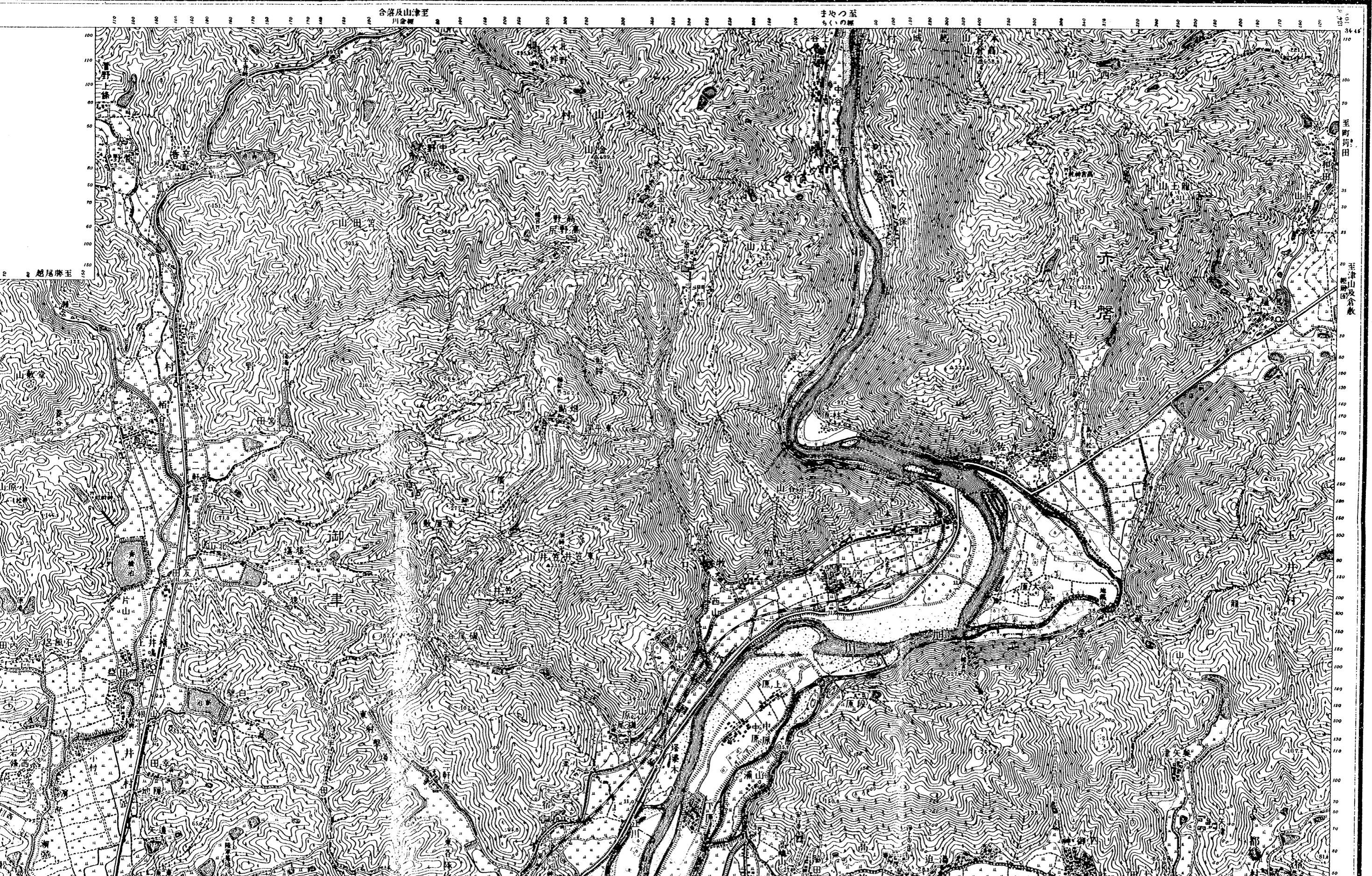
陸 軍

分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	<table border="1" data-bbox="667 436 1114 784"><tr><td data-bbox="737 452 890 609">3</td><td data-bbox="890 452 1043 609">4</td></tr><tr><td data-bbox="737 609 890 766">1</td><td data-bbox="890 609 1043 766">2</td></tr></table>	3	4	1	2
3	4				
1	2				
分割撮影 した 理 由	A 3判以上のため				
<p data-bbox="263 1182 1308 1348">上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p data-bbox="367 1505 922 1572">5 年 7 月 22 日</p> <p data-bbox="523 1697 817 1751">主務者又は</p> <p data-bbox="518 1854 1417 1944">撮影立会者 加部東 保夫 </p>					

岡山北部

岡山	岡山縣	岡山市
赤松	赤松郡	赤松市
備前	備前郡	備前市
備後	備後郡	備後市



二万五千分一地形岡山近傍十四號其二十四面
高梁四號岡山北部ノ二

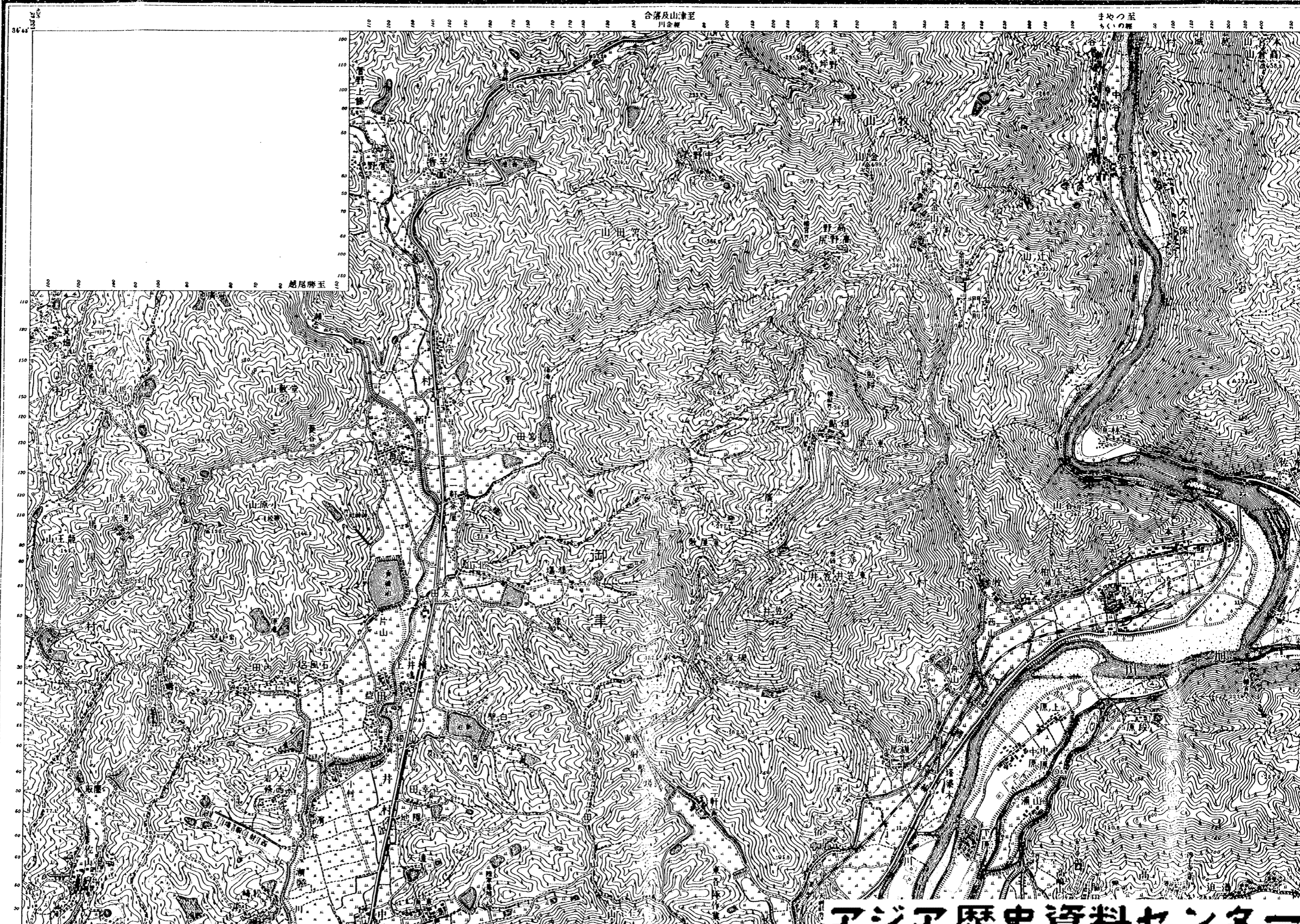
岡山北部

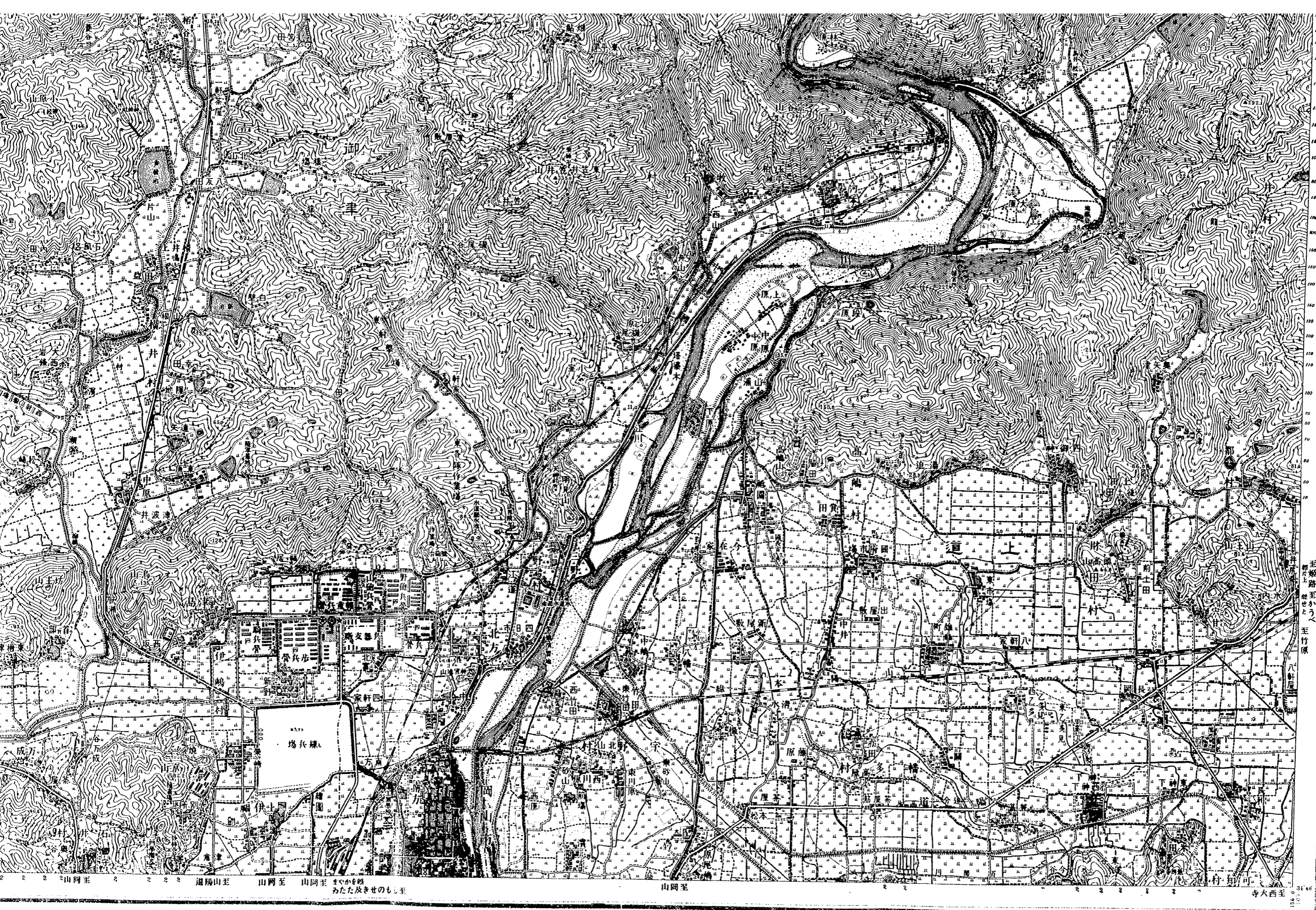
守足	山崎	山崎
教倉	山崎	山崎

海關名及領内八其所屬
五方分一圖五

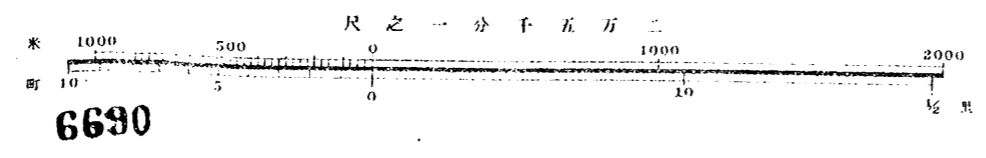
- | | |
|---------|---------|
| ○ 樓望軍海 | ○ 祠神 |
| ○ 所造製 | ○ 宇佛 |
| ○ 行銀 | ○ 堂教西 |
| × 庫藥火 | ○ 署公國內 |
| △ 房車水 | ○ 署公國外 |
| ┌ 牆工坑 | △ 轄所軍陸 |
| ┌ 牆巧柱木 | △ 轄所軍海 |
| ┌ 柵鐵 | ◎ 部令司團師 |
| ┌ 柵木 | ◎ 部令司團旅 |
| ┌ 牆板 | ☆ 備警署要 |
| ┌ 垣竹 | ☆ 部令司隊 |
| ┌ 埤 | ★ 備警區隊 |
| ┌ 籬生 | ◎ 府守鎮 |
| ┌ 圍土 | ○ 及道 |
| ┌ 溝水 | ○ 及縣府 |
| ┌ 地墓 | ○ 廳島支 |
| ┌ 表華 | ○ 所役市 |
| ┌ 龍燈 | ○ 及場役村町 |
| ┌ 碑念記 | ○ 所役區 |
| ┌ 標界 | × 校學 |
| ┌ 樹立獨 | ○ 院病 |
| ┌ 竹孤及 | ○ 及院病 |
| ┌ 樹出抽 | ○ 舍病離 |
| ┌ 突烟 | △ 隊兵憲 |
| ┌ 點角三 | × 署警警 |
| ┌ 標準水 | ○ 及院請 |
| ┌ 點高標立獨 | ○ 所判裁 |
| ┌ 陵山 | ○ 獄監 |
| ┌ 城城 | ○ 關稅 |
| ┌ 山火 | ○ 司理管務稅 |
| ┌ 泉礦 | ○ 署務稅及 |
| ┌ 場蓄貯料材 | ○ 署區林 |
| ┌ 地礦採 | ○ 署警監山嶺 |
| | ○ 全司買專 |
| | ○ 全及司文 |
| | ○ 所造製 |
| | ○ 部事海 |
| | ○ 電信電便郵 |
| | ○ 司便郵 |
| | ○ 司信電 |
| | ○ 司話電 |
| | ○ 所候測 |
| | ○ 道國 |
| | ○ 道縣 |
| | ○ 道里 |
| | ○ 徑小 |
| | ○ 通車行 |
| | ○ 附行 |
| | ○ 線電 |
| | ○ 道鐵 |
| | ○ 道鐵特 |

明治二十八年測圖同四十三年第一回修正測圖大正五年製版



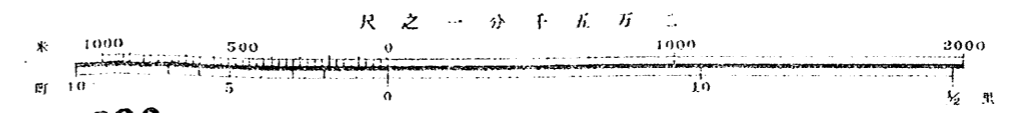
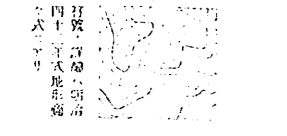


圖外右行ノ地名ハ本圖所屬特設地區ノ名稱
 シテ左行上方ノ地名ハ所屬二十万分一圖ノ名號下方
 ノ地名ハ同五分一圖ノ名號ナリ
 高程ハ東京灣ノ中等潮位ヨリ起算シ米突ヲ以テ示ス
 圖式ハ明治四十二年式地形圖式ニ據ル



- | | |
|---------|---------|
| ▲ 標界 | △ 除兵憲 |
| ▲ 樹立獨 | × 署察警 |
| ▲ 樹出抽 | △ 及院該控 |
| ▲ 突烟 | △ 獄監 |
| ▲ 點角三 | △ 關稅 |
| ▲ 標準水 | △ 司理管務稅 |
| ▲ 點高標立獨 | △ 署務稅及 |
| ▲ 陵山 | △ 署區林 |
| ▲ 墟城 | △ 署督監山鑛 |
| ▲ 山火 | △ 全司費專支 |
| ▲ 泉礦 | △ 全及局造製 |
| ▲ 場蓄貯料材 | △ 部事海 |
| ▲ 地礦採 | △ 郵信電便郵 |
| | △ 局業ヲ請 |
| | △ 司便郵 |
| | △ 司信電 |
| | △ 司話電 |
| | △ 所候測 |
| | △ 道國 |
| | △ 道縣 |
| | △ 道里 |
| | △ 徑小 |
| | △ 通車 |
| | △ 部化 |
| | △ 樹行 |
| | △ 通普 |
| | △ 壓高別特 |
| | △ 道鐵 |
| | △ 道鐵種特 |
| | △ 國外 |
| | △ 縣府 |
| | △ 市郡 |
| | △ 區官 |
| | △ 村町 |
| | △ 地有 |
| | △ 類地 |
| | △ 水深及岸高 |
| | △ 徒涉所 |
| | △ 車輪涉所 |
| | △ 人渡出船 |
| | △ 人馬渡出船 |
| | △ 汽船渡 |
| | △ 無線電柱 |
| | △ 燈臺 |
| | △ 固定標 |
| | △ 浮標 |
| | △ 警報標 |
| | △ 商港 |
| | △ 桑畑 |
| | △ 茶畑 |
| | △ 果園 |
| | △ 草地 |
| | △ 潤葉林 |
| | △ 樹葉林 |
| | △ 樹林 |
| | △ 竹林 |
| | △ 荒地 |

大正五年六月二十五日印刷 同六月三十日發行 著作權所有印刷兼發行者 大日本帝國陸地測量部



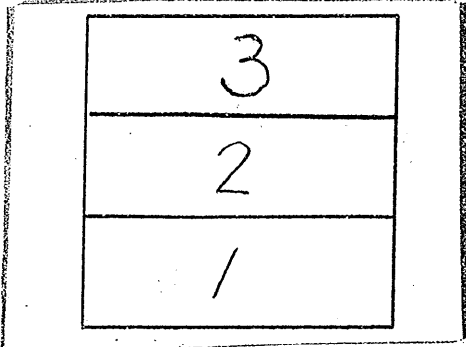

1020

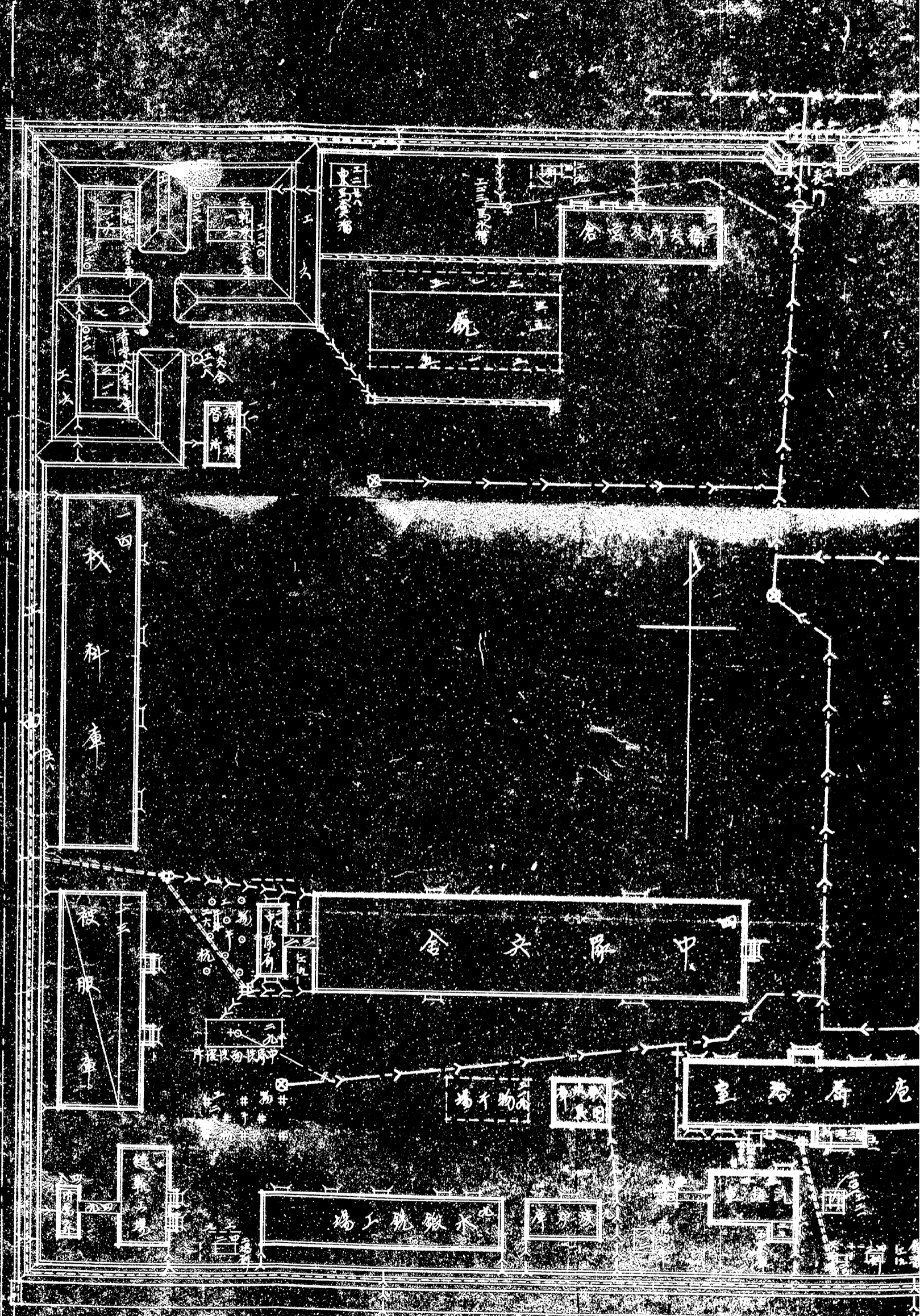
岡山大学

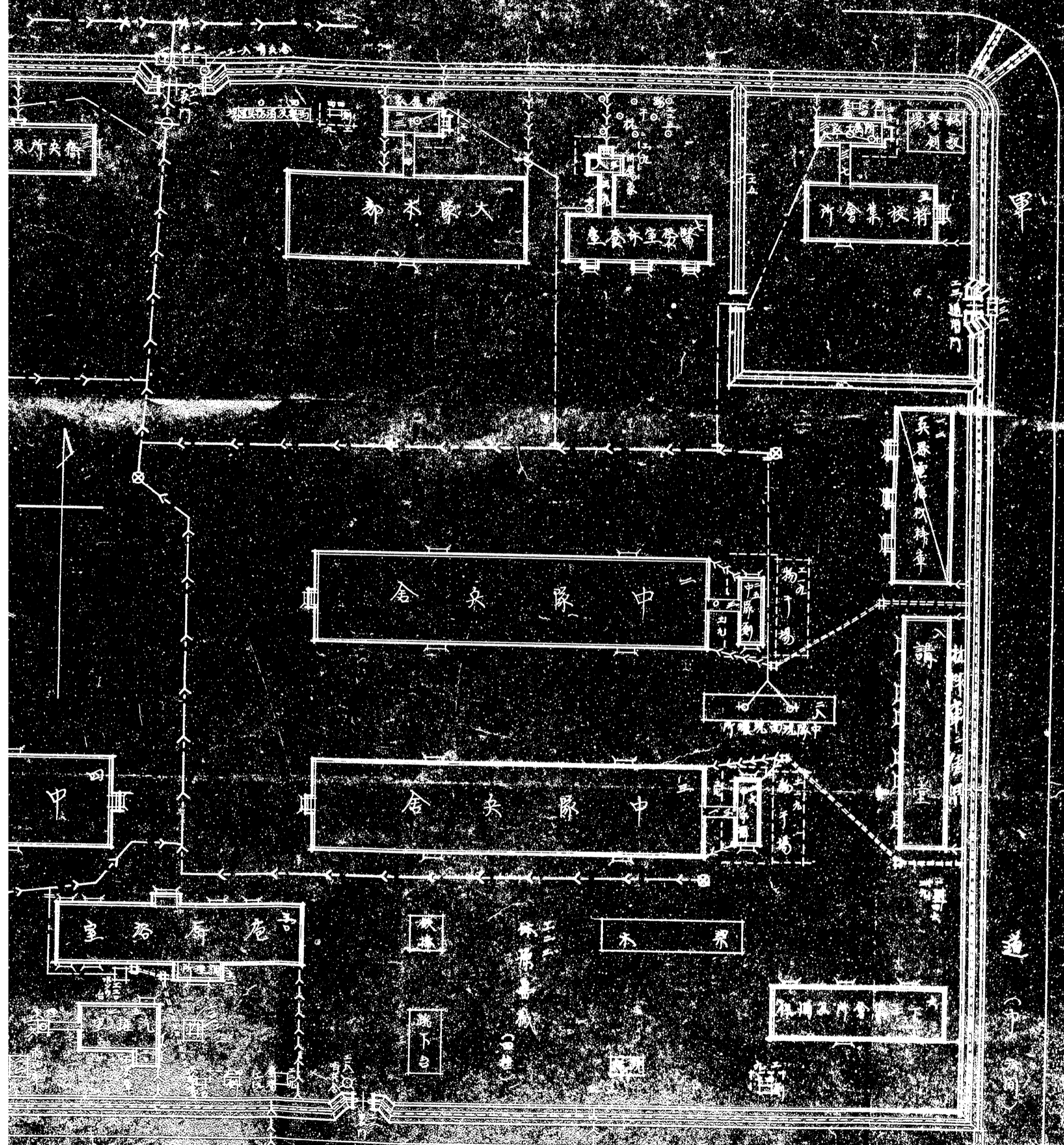
岡山大学

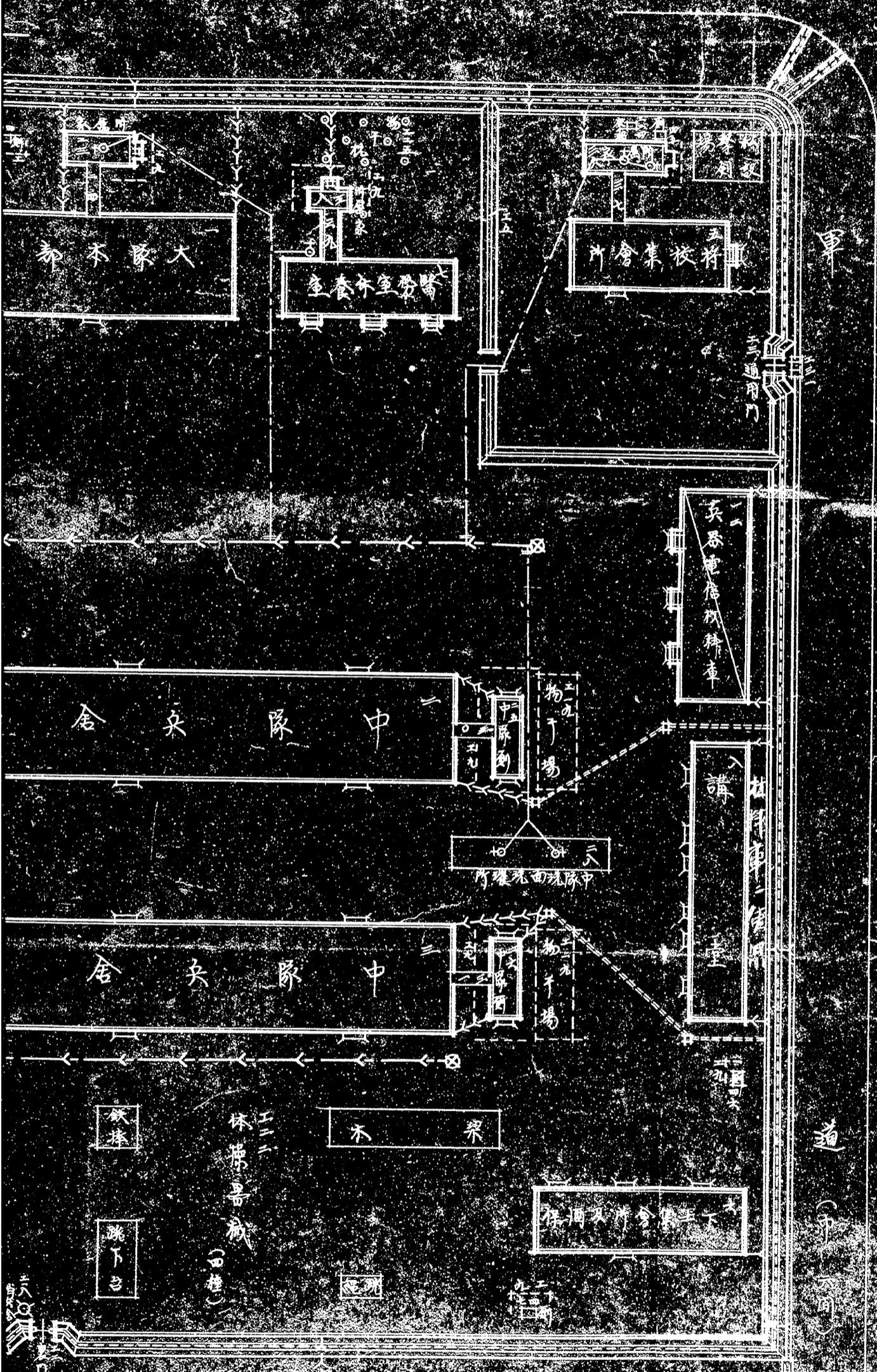
岡山大学一巻

分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影順序	
分割撮影 した 理由	A3判以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>5年7月22日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 加部東 保夫 </p>	







名	大木隊
所在地	岡山縣備前國岡山市 大字北方及大寺洋島
面積	六百八十一

軍


道

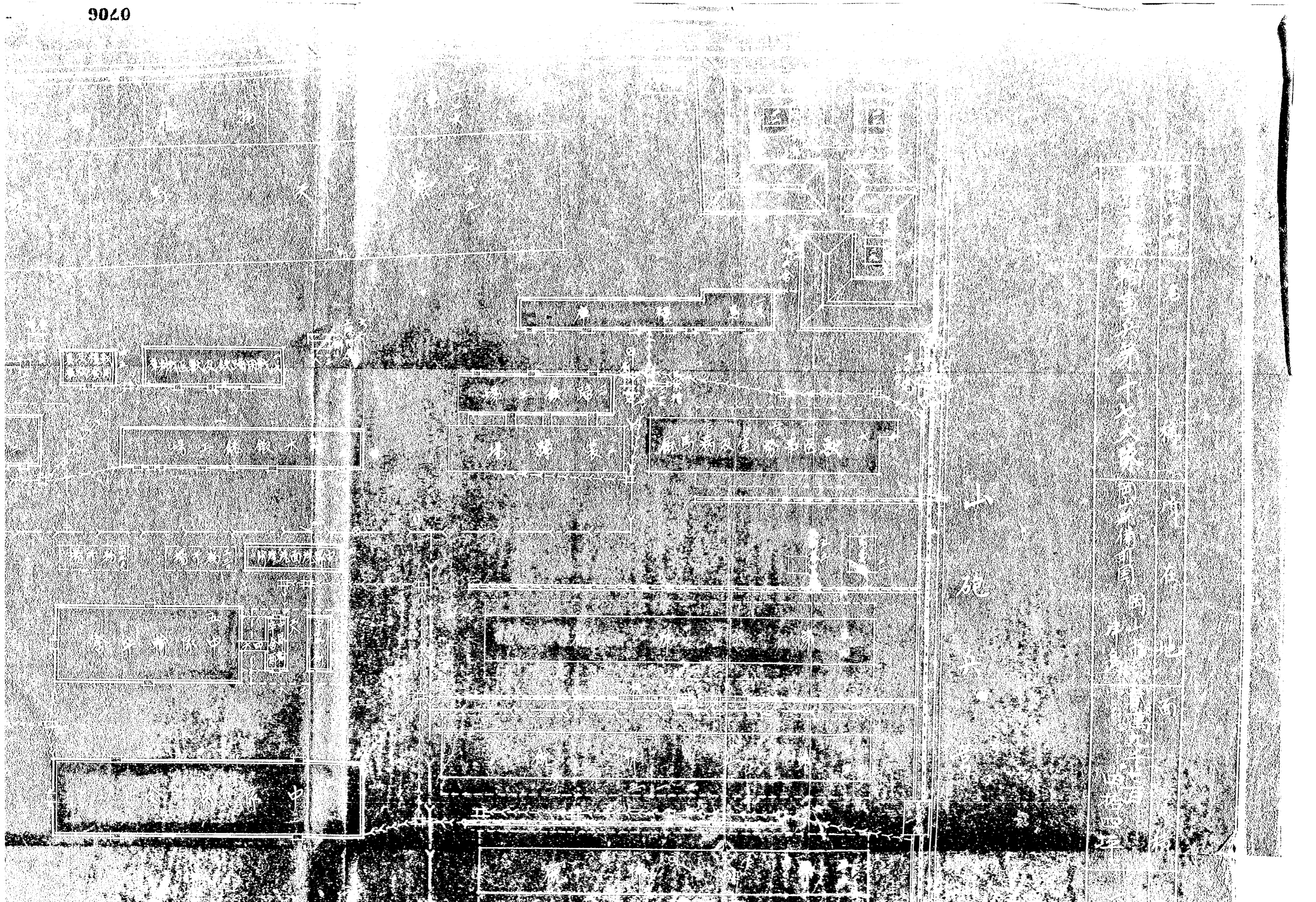
(市二間)

0705

工兵第十大隊配置

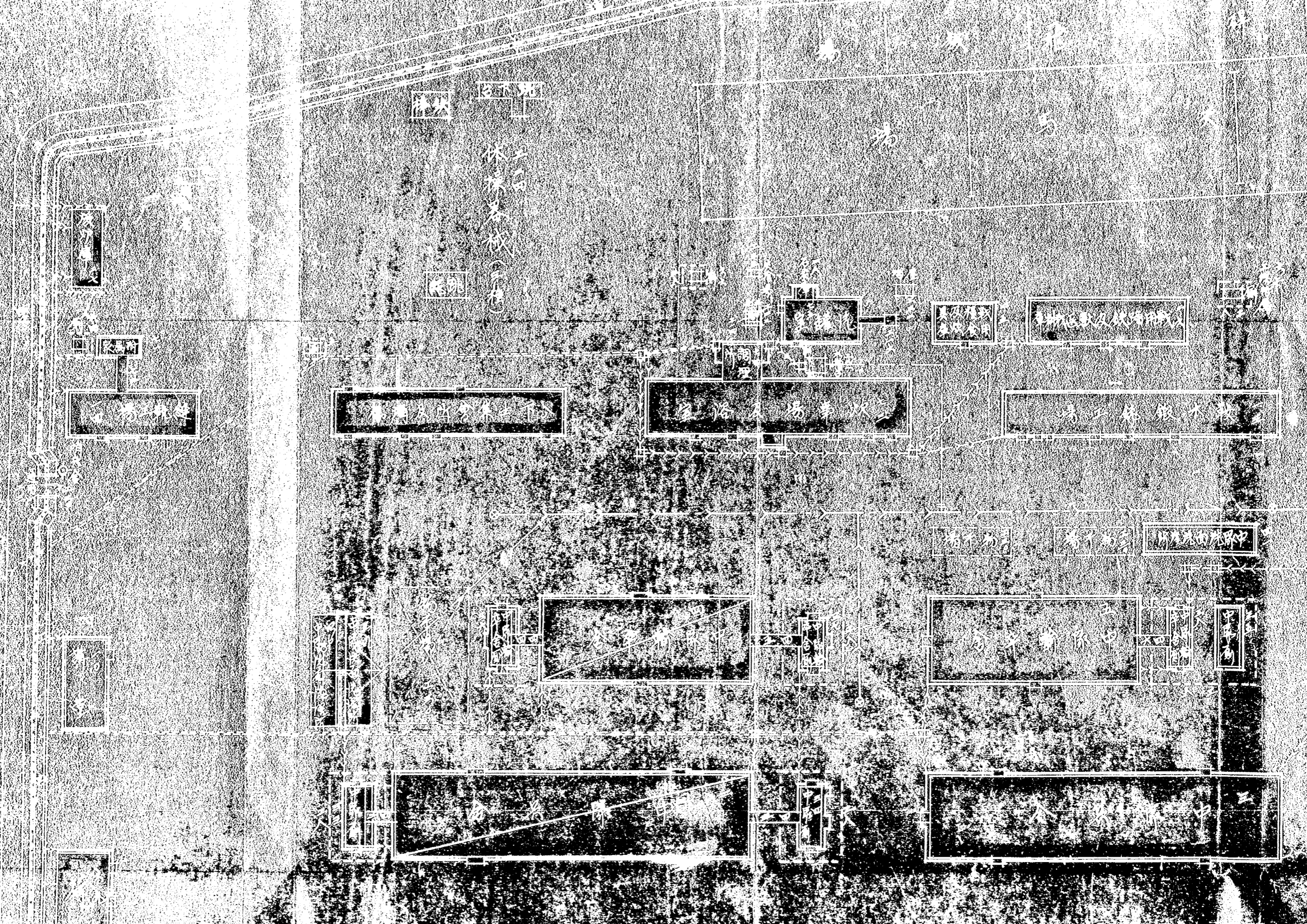
分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影順序	<table border="1" data-bbox="683 450 1129 801"><tr><td>3</td><td>4</td></tr><tr><td>1</td><td>2</td></tr></table>	3	4	1	2
3	4				
1	2				
分割撮影 した 理由	A3判以上のため				
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>5年7月22日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 加部東 保夫 </p>					



此圖係清乾隆二十七年
 內務府所繪之
 北京皇極殿
 內務府衙門
 之圖也

山
 院
 正
 中



念 於 所 中

鹿 野 別 荘

徳 林 二 子

徳 林 二 子

徳 林 二 子

徳 林 二 子

徳 林 二 子

徳 林 二 子
不 百 分 堂

徳 林 二 子
在 本 館 任 用

送

命

命

命

命

命

命

命

命

元
勅
室
兵
第
十
七
大
隊
配
置

閱

1120

肆
第五〇五號
英五

調甲第二八號

工兵第十大隊轉營ノタメ兵器廠所管諸品

移換整理狀況ノ件報告

昭和二年十二月十九日 陸軍兵器本廠長 近藤 兵

陸軍大臣 白川 義 則 殿

陸普第一五〇〇號別紙規定第八項ニ關スル首題ノ件別紙ノ通報告

ス

月 日	印 者	器 材

2 12 20
前 9.

陸軍省
2. 12. 20
銃砲課

3. 1. 18
74

陸軍省
兵器廠
印

陸 軍

陸軍省 銃砲 2120

陸軍省 参照第一三八號

陸軍省

一 工兵第十大隊轉炊官等ノ實施施
概況ニ関スル件報告

昭和二年六月二十三日 第十師團長長谷川直

陸軍大臣白川義則殿

首題ノ件別紙ノ通報報告ス

		課長
	○	陸軍省 参照第一三八號
陸軍省 参照第一三八號	○	陸軍省 参照第一三八號
陸軍省 参照第一三八號	○	陸軍省 参照第一三八號
陸軍省 参照第一三八號	○	陸軍省 参照第一三八號
陸軍省 参照第一三八號	○	陸軍省 参照第一三八號
陸軍省 参照第一三八號	○	陸軍省 参照第一三八號
陸軍省 参照第一三八號	○	陸軍省 参照第一三八號

納目
2. 6. 24
午 8. 時
陸軍省

2. 7. 4
陸軍省

2. 6. 24
98
陸軍省

陸軍省
2. 7. 11
時
陸軍省

陸軍省
2. 7. 6
器材課

軍

工兵第十大隊轉營等ノ實施概況報告

一師團長ハ轉營ニ関スル陸普第一四九九號ノ示
 達事項及陸普一五〇〇號ノ通牒事項ニ基キ工
 兵第十大隊兵器本廠岡山出張所相互ノ内
 協議ヲ行ハシノ其結果ニ基キテ兵器本廠
 長ト所要ノ協定ヲ遂ケタル後五月七日
 附録第一ノ如ク轉營等ニ関スル示達ヲ行フ
 ニ工兵第十大隊新兵營ニ於ケル電燈設備水
 道設備等ハ轉營開始迄ニ之ヲ完了シ五月九
 日ヲ以テ轉營ヲ開始シ同月十日其人馬ノ轉
 營ヲ實施セリ

又兵器本廠岡山出張所ハ工兵第十大隊轉營
 ニ伴ヒ開放ヲ要スヘキ建築物等ニ格納シアル

諸品ノ移換ヲ第二項ト同時ニ開始セリ

三 轉管間天候良好ニシテ實施ニ蹉跌ヲ來ス
コトナリ五月二十日之ヲ完了セリ

但シ附録第一ノ規定第三條第二項ニ依リ兵器本廠所管諸品中新工兵第十大隊兵營ニ殘置セル諸品（陸普第一五〇〇號轉管ニ關スル規定第五項ニ依ル兵器本廠使用ノ既四棟ニ格納シアルモノヲ除ク）ノ移管ハ昭和二年九月中旬以後ニ於テ實施スル豫定ナリ

四 轉管等ハ主トシテ兵力及軍部保管車輛ヲ以テ實施セリ其使用人員車輛ノ數量附録第二ノ如シ

附録 第一

第十師團留參廢第一二二號

工兵第十大隊ノ轉營及兵器本廠岡山出張所保管

諸品移換ニ関スル件ニ達

昭和二年五月七日

第十師團長 長谷川道敏

別紙ニ兵第十大隊ノ轉營及兵器本廠岡山出張所保管諸

品移換ニ関スル規定ニ依リ工兵第十大隊ハ元輜重兵第十

七大隊兵營ニ轉營ヲ又兵器本廠岡山出張所ハ元輜重兵

第十七大隊兵營ニ格納シアル保管諸品ヲ元工兵第十

十大隊兵營等ニ移換ヲ實施スヘシ

陸

軍

工兵第十大隊ノ轉營及兵器本廠岡山出張所
保管諸品ノ移換ニ関スル規定

第一條 本規定ハ工兵第十大隊ノ元輜重兵第十七
大隊兵營ニ轉營及元輜重兵第十七大隊兵營ニ格
納シアル兵器本廠岡山出張所（以下單ニ岡山出張所
ト稱ス）保管諸品ヲ元工兵第十大隊兵營等ニ移
管スル事項ヲ定ムルモノトス

第二條 工兵第十大隊ノ新兵營ニ於ケル建造物使
用区分及元輜重兵第十七大隊兵營中岡山出張
所ノ使用スル区域要圖ノ如シ

第三條 工兵第十大隊ノ轉營及岡山出張所保管
諸品ノ移管ハ五月九日之ヲ開始シ概ネ同月中
ニ之ヲ完了スルモノトス

但工兵第十大隊人馬ノ轉營ハ五月十日之ヲ實施スルモノトス又岡山出張所ハ元工兵第十大隊兵營ニ於ケル諸品格納設備完了迄一部ノ諸品ヲ工兵第十大隊兵營内ニ殘置スルコトヲ得

第四條 工兵第十大隊ノ轉營及岡山出張所保管諸品ノ移換ハ工兵第十大隊ノ兵力及同隊保管車輛並岡山出張所保管車輛ヲ以テ之ヲ實施シ己ムヲ得サルモノニ限り地方輸送機關ヲ用フルコトヲ得

第五條 轉營ニ當リ新舊土地建造物ノ返還授受ハ師團經理部ト協議ノ上實施スヘシ

第六條 工兵第十大隊ハ其轉營計畫四通ラ又岡山出張所ハ其保管諸品移換計畫四通ラ

成ルヘク速ニ之ヲ師團長ニ報告スルモノトス

第七條 工兵第十大隊ノ轉營及岡山出張所保管

諸品移管ニ西女セン運搬費ハ每實施後速ニ之ヲ

師團長ニ報告スルモノトス

第八條 工兵第十大隊ハ轉營實施ノ概況報

告四通ヲ又岡山出張所ハ保管諸^品移換概

況報告四通ヲ六月十日迄ニ師團長ニ提

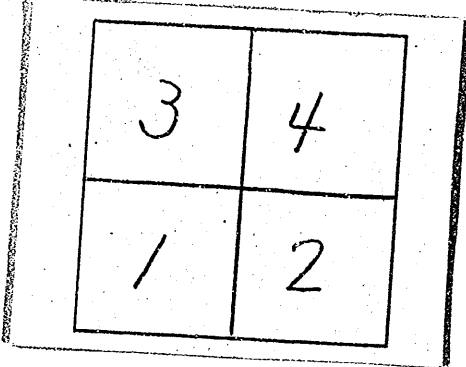

出スルモノトス

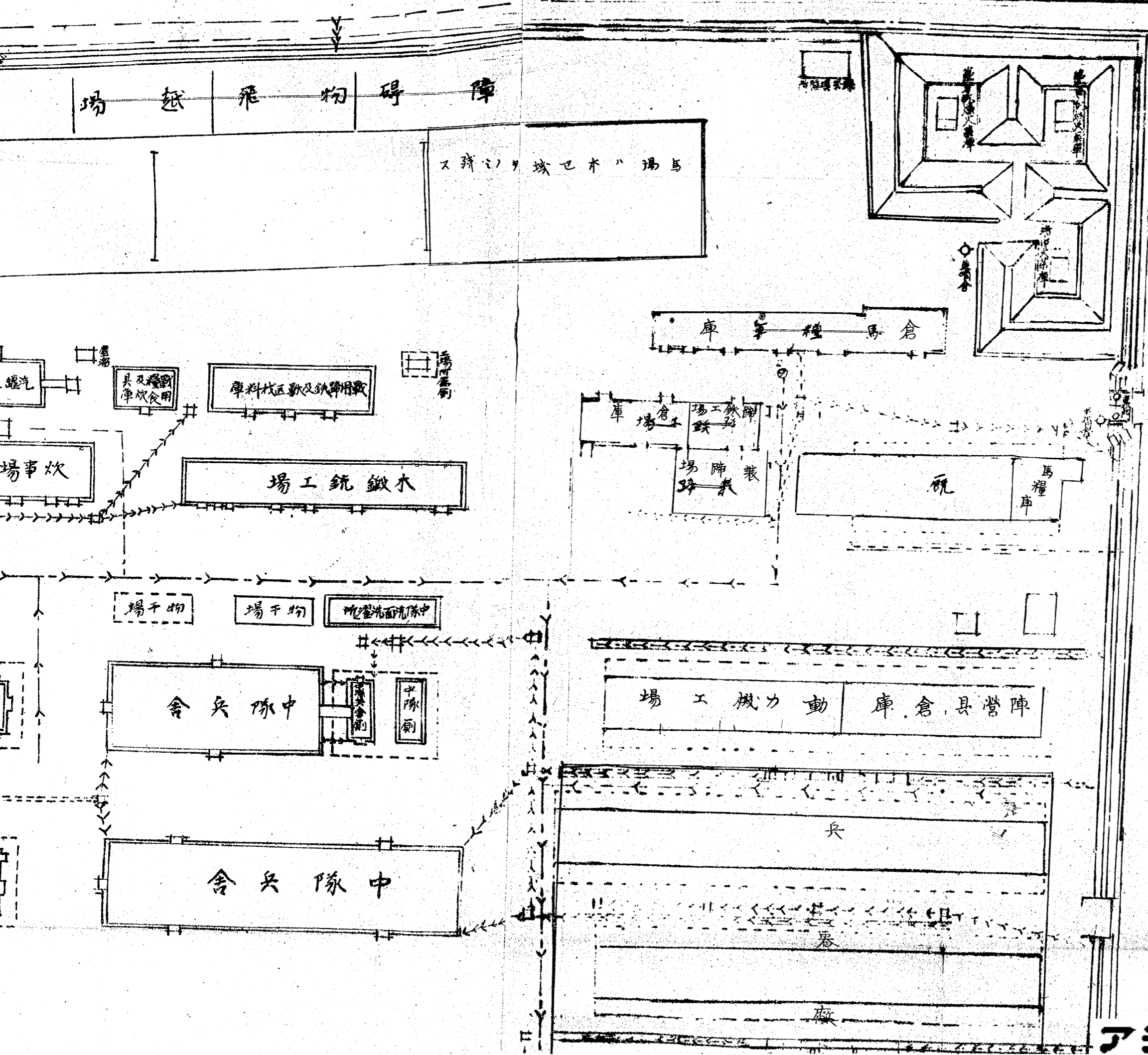
第九條 工兵第十大隊ノ轉營及岡山出張所保

管諸品移換ニ関シテハ本規定ニ定ムルモノノ外

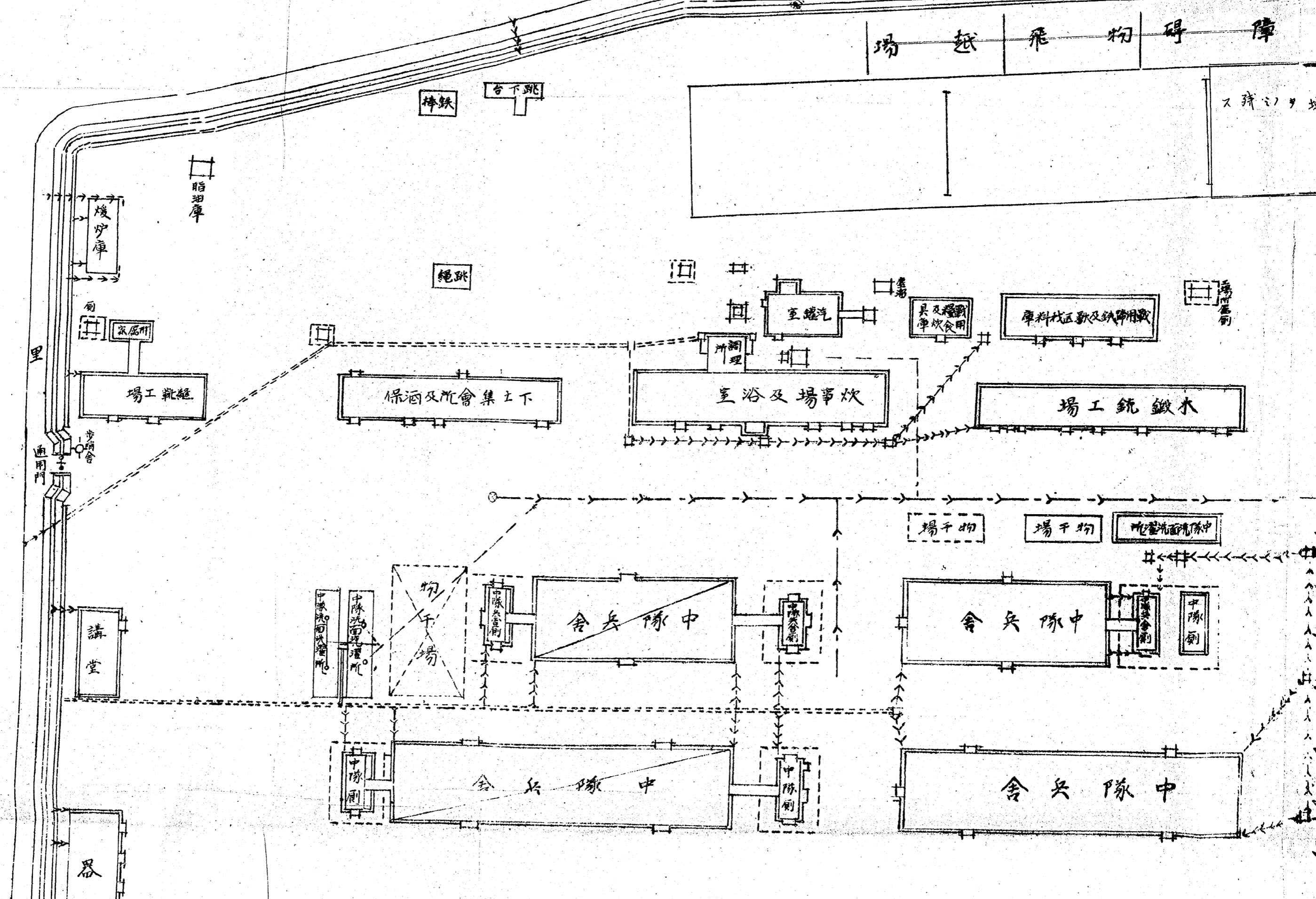
相互協議決定スルモノトス

分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影順序	
分割撮影 した 理由	A3判以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>5年7月22日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 加部東 保夫 </p>	

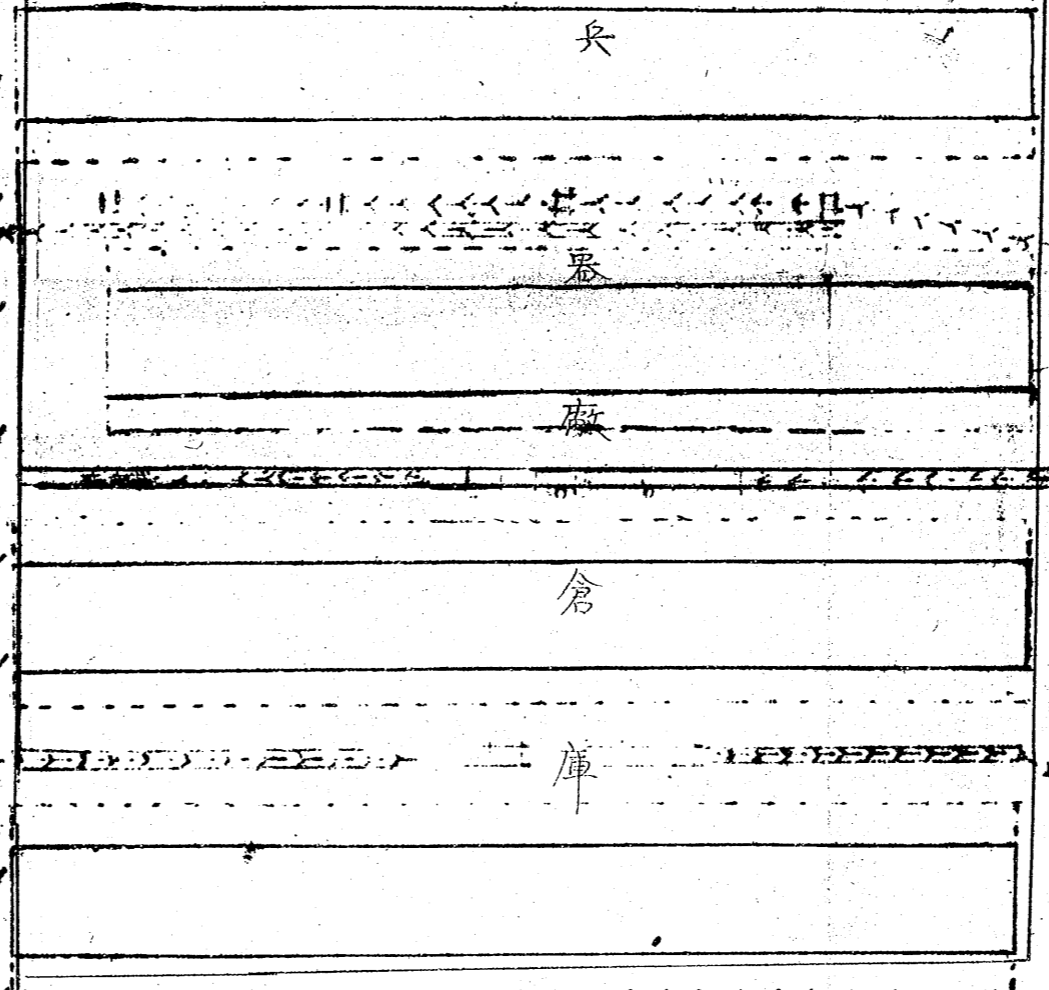


名	番	所在地	面積
工兵第十大隊	第一番	岡山縣備前國岡山津島	貳萬九千七百四拾四坪
			六坪



九千七百四拾四坪
 六百分ノ壹
 積
 梯
 尺

中隊兵舎

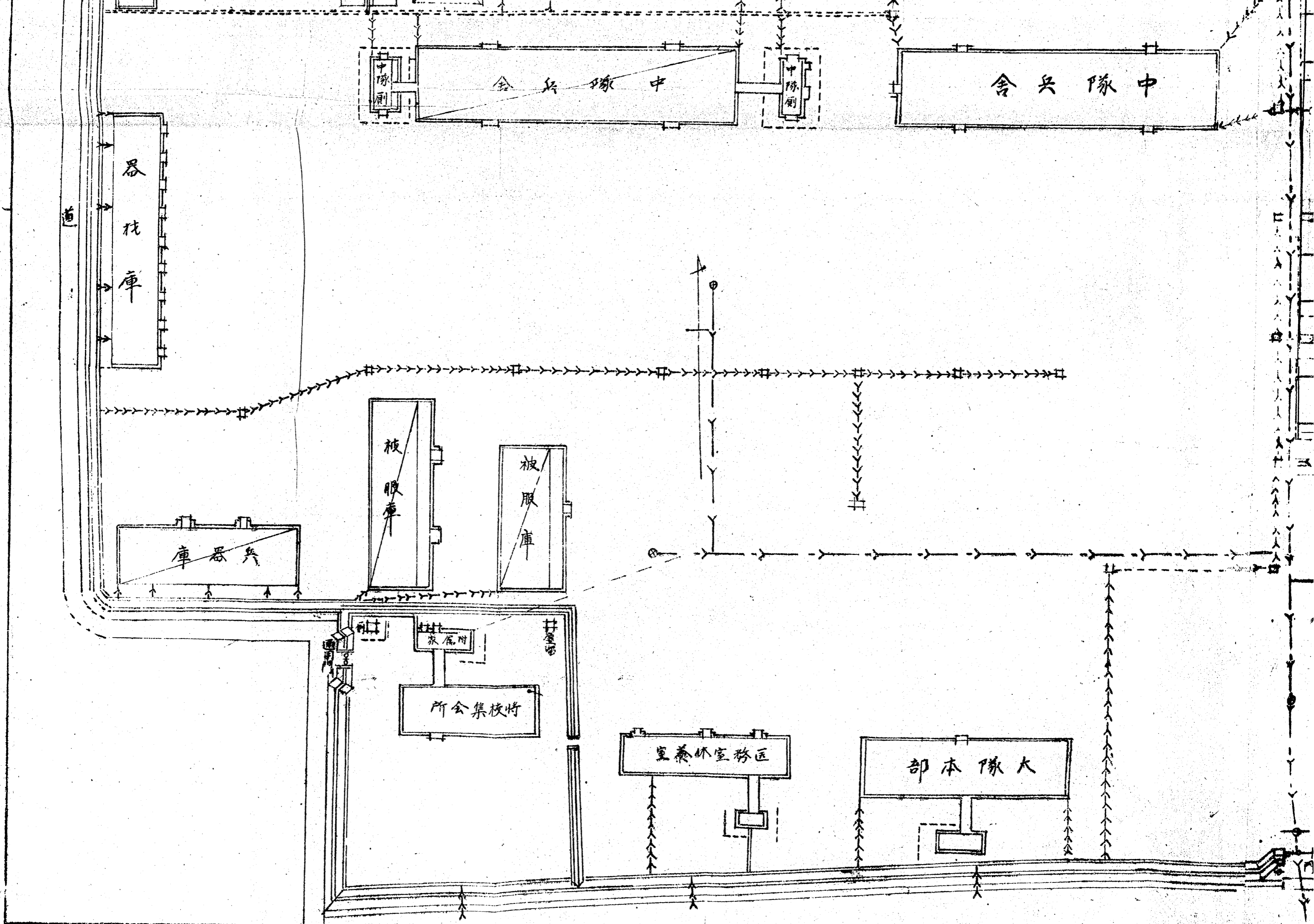


大隊本部

衛隊所及倉庫

練習員庫
 通信倉庫
 通信倉庫
 庫
 庫
 庫

入口
 車器
 輪材
 庫庫



0722

0721

附録第二

工兵第十大隊轉營及之ニ伴フ兵器本廠所管諸品移換ノタメ使用セル人員車輛數量一覽表

使用目的	下士兵卒	輜重車輛	備役人夫	備役荷馬車
工兵第十大隊轉營	二六一七名	四八一輛		一五輛
兵器本廠所管諸品移換	八七七名	三六輛	二〇一名	六二輛

備考
 本表ノ人員車輛數ハ轉營等ノ準備、實施期間ニ於ケル一日ノ使用數ヲ基礎トスル延數ヲ示ス

閱

留參

第五〇五號

第一〇八號

259
58

25.12

5.11
88

工兵第十大隊轉管之伴ノ兵器廠所管諸品
移換實施期日ノ関スル件報告

昭和二年五月七日

第十師團長長谷川直敏
陸軍大臣白川義則殿

四月十六日陸普第一四九九號ヲ以テ達相成候工兵第十大隊轉
管ノ関シテハ人馬ハ五月十日ニ於テ新兵營ニ移リ同隊保管物件
ノ運搬並ニ兵器廠所管諸品ノ移換ハ五月九日ヨリ開始スル豫
定及報告候也

0724

鏡砲

器材

鏡砲

器材

陸軍

0225

見本
銃砲
林
軍部

陸軍大臣宛

電報譯

五月七日午時

五時三十分著

5. 9. 8. 時
官房印

第一二號

陸軍大臣宛 發信者 第十師團長
工兵第十大隊、転営乃兵器庫
所管諸品、移転ハ五月九日
施ス後文

陸軍

陸軍
2. 5. 12.
銃砲課

9220



開

陸軍省
庶務課
第二〇五號
其

參謀本部
庶日第二九三號ノニ

工兵第十大隊轉營ノ件回答

昭和二年四月十六日

參謀總長 鈴木 莊六

陸軍大臣 宇垣 一成 殿

首題ノ件ニ關シ四月十四日陸普第一四二九號ヲ以テ照會ノ趣異存ナ

シ



軍事課第九八號

小林又七印行

陸軍